

2018 年 11 月 15 日 総合政策特別委員会

NICT 土井美和子

次期科学技術基本計画に向けて

1) 工学とわくわく感

- IEEE 次期会長や IEEE コンピュータソサエティ会長選出などが示す工学における学術のリーダーシップと公益性を生かす
- STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) から STEAM (Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics) へのシフトがうたわれている。AI を駆使する Society5.0 時代の科学技術政策においても、Art の要素は「価値の創造と発信」や「理系・文系の垣根を超えた発想の転換」などの観点から重要である。Art の要素は「わくわく」感とも無関係ではなく、その楽しさの中から新しい産業応用も「自然に」生まれてくるのではないか。世界規模のヒット商品はデザインも一流であり、デザインの要素が今後重要となると考える。

2) 学術における DX (Digital Transformation) (実験室の IoT 化)

- DX による研究の時間を奪うバックヤードの効率化をはかる
- オープンデータを推進する実験データのクラウド化をはかる

3) 若手研究者のクリエイティブな研究環境

- 運営費交付金 (+ 科研費程度の自由度がある経費) での雇用を増加する (競争的資金では決まったテーマで自由度がない)

4) 新領域への挑戦

- 社会課題解決は重要であるが、すべてが社会課題に収斂してしまうことに危うさを覚える。未来を拓くためには社会課題解決に加えて、いま想像すらできないことが新たに発展するという視点が必要である。
- 従来の研究領域との関連性が強い領域 (コンチネント型領域: 必然的に競争が激しい) にとらわれず、小規模でも新領域 (スモールアイランド型) の数を増やし、育てる